

# 1 株式会社マンドム

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● 気候変動を当社におけるリスクと認識した上で、バリューチェーンにおけるCO2排出量を把握し、その削減ポイントを明確化することで、脱炭素社会に向けた取組みを推進する為。</li><li>● また、現在設定しているCO2排出量削減の長期目標を、パリ協定などの国際的な潮流と整合した目標へ改訂するための検討材料とする。</li></ul>
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● CO2排出量削減に向けた取組みの方向性や計画の策定。</li><li>● 外部の企業評価機関、アンケート等への回答。</li><li>● 自社ウェブサイト、CSRレポート等での情報公開。</li></ul>
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● バリューチェーン全体のCO2排出量の把握による重点的取り組みカテゴリーの明確化、脱炭素社会に向けたより効果的な対応への展開、企業の社会的信頼性の向上。</li><li>● 関連部署と協働した算定により、社内における社会的動向への関心、認識の向上。</li></ul>
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 社内関連部署より活動量データを収集し、CSR推進部にて算定を行う。</li></ul>

## 2

## 株式会社マンドム

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>● 容器の軽量化、詰替え化、環境配慮素材（植物由来素材など）の使用による、カテゴリ-1購入した製品・サービス、カテゴリ-12販売した製品の廃棄における排出量の削減検討。</li><li>● カテゴリ-11販売した製品の使用時における排出量削減に貢献できる、環境配慮型製品の検討など。</li></ul>
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● 算定手法が属人化しないための、社内マニュアルなどの整備が必要。</li><li>● シナリオによる算定など、精度面での課題。</li></ul>
⑦ その他 (任意)	

## 3

## 株式会社マンドム

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2017年4月～2018年3月
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料使用実績をもとに調達量を推計	● SC排出原単位DB CFP-DB
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資金額	● SC排出原単位DB
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー使用量	● SC排出原単位DB CFP-DB
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 輸送トンキロ 独自シナリオ設定	● SC排出原単位DB
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物重量	● SC排出原単位DB
カテゴリ6「出張」	● 社員数	● SC排出原単位DB
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 社員数	● SC排出原単位DB
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● 該当なし	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 輸送トンキロ 独自シナリオ設定	● CFP-DB
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 独自シナリオ設定	● CFP-DB
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 包装資材重量 独自シナリオ設定	● SC排出原単位DB CFP-DB
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 該当なし	
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	
カテゴリ15「投資」	● 保有株式割合	
「その他」	● 該当なし	

# 4

# 株式会社マンドム

## サプライチェーン排出量算定結果

